

# 内陸の水上交通にかかる考古学的一観点 — 主に船着場遺構への認識をめぐって —

根津 明義（高岡市教育委員会）

## 水上交通にかかる諸問題

交通及び交通路については、概して歴史的様相と付随して形成されていく一方で、周辺の自然環境などとも表裏をなす傾向にある。富山平野においても、網目状に水利が交錯する自然環境から水上交通の果たす役割も少なくなかったとする見解が以前より提起されてきたが<sup>(1)</sup>、近年では、同平野の内陸に位置する高岡市中保B遺跡から船着場遺構や倉庫群をはじめとする遺構群が検出され、上記の推察は物証をもって論ずることが可能となっている<sup>(2)</sup>。

周辺地域の歴史的様相を解く糸口は、水上交通を考察の基軸とした場合においても多方面にわたり存在する可能性がある<sup>(3)</sup>。残念ながら、この分野をめぐっては報告例が少ないなどの障壁も存在する現状にあるが、水上交通への検討を一つの研究分野として確立せんことを近・未来的な目標にすえるならば、まずは第一段階として船着場の把握が急務であると考える次第である。

試論：船着場遺構の把握にかかる指標—内陸のそれを中心にして—

紙枚の関係により詳細を述べることは不可能であるが、以下では遺跡から検出された（あるいは既に調査報告書等に記録保存されている）遺構を「船着場」と認識する際の指標を筆者なりに試論として掲げておくこととしたい。

- ①. 水辺と接し、一部なりとも何らかの手が加えられた遺構であること。
- ②. 荷物の積みおろしに使用するための平坦面が存在すること。
- ③. 護岸施設又はその痕跡が伴うこと。

事例：周防国衙「船所」<sup>(4)</sup>・長崎県原の辻遺跡<sup>(5)</sup>・岡山県上東遺跡<sup>(6)</sup>など

- ④. 船を停泊ないし係留させるための舟杭などの施設が備わっていること。

事例：周防国衙「船所」<sup>(4)</sup>・原の前遺跡<sup>(7)</sup>・石川県加茂遺跡<sup>(8)</sup>？

- ⑤. 乗降場と考えうる硬化面や、これに該当する施設が伴うこと。

事例：富山県中保B遺跡<sup>(2)</sup>など

- ⑥. 船溜まり又はこれに代わるもののが伴うこと。

事例：富山県梅原安丸V遺跡<sup>(9)</sup>・中保B遺跡<sup>(2)</sup>

※. 石川県上荒屋遺跡<sup>(10)</sup>や新潟県門新遺跡<sup>(11)</sup>のような簡素な構造を呈する船着場について  
は、遺構それ自体が船溜まりの機能を兼ねる可能性があるかと思われる。

- ⑦. 船又はその道具類が検出されること。

事例：高知県船戸遺跡における石碇の検出など<sup>(12)</sup>。

- ⑧. 船又は船道具を収蔵する施設や、あるいは船を修繕するドックなどが近隣に所在すること。

事例：福岡県今山遺跡<sup>(13)</sup>？・兵庫県兵庫津遺跡<sup>(14)</sup>？

- ⑨. 水上交通の存在を示す文字史料の検出や、これと関連する字名などが周辺に存在すること。

事例：石川県金石本町遺跡<sup>(15)</sup>・畠田寺中遺跡・畠田ナベタ遺跡・戸水C遺跡<sup>(16)</sup>・

中保B遺跡<sup>(2)</sup>・新潟県蔵ノ坪遺跡<sup>(17)</sup>など

- ⑩. 船の航路と推定しうる水路が併存すること。

事例：富山県小杉丸山遺跡及び御亭角遺跡<sup>(18)</sup>・中保B遺跡<sup>(2)</sup>など

- ⑪. 倉庫群や道路遺構、その他木簡をはじめとする文字史料など、船着場との関連が考えられる検出物や蓋然性との総合的機能論から、当該遺構を船着場と判断することができること。

事例：門新遺跡<sup>(11)</sup>・中保B遺跡<sup>(2)</sup>・梅原安丸V遺跡<sup>(9)</sup>など

## 関連施設との総合的検討

水上交通の介在を考古学に把握するにあたっては、船着場遺構を検出することが最も有効な手段の一つになると思われる。しかしながら、その関連諸施設の把握やこれらを含めた総合的検討も、周辺の歴史的様相を検討するための資料になる可能性があると思われる。

### ①. 簡易的な構造物の並存

⇒ 現代にも類例がみられるように、船又は船道具を収蔵する施設となる可能性がある。

### ②. 水路の規模

⇒ 寄港する船の規模がある程度反映される可能性がある。

### ③. 倉庫類の構造

⇒ 郡衙正倉に比定されるような総柱構造の掘立柱建物を主とする倉庫群と、中保B遺跡のように側柱構造のそれを主とするものとの対比。またはこれと関連し、収蔵物の種類や数量からも当該遺跡の性格を把握するための指標となる可能性があると思われる。

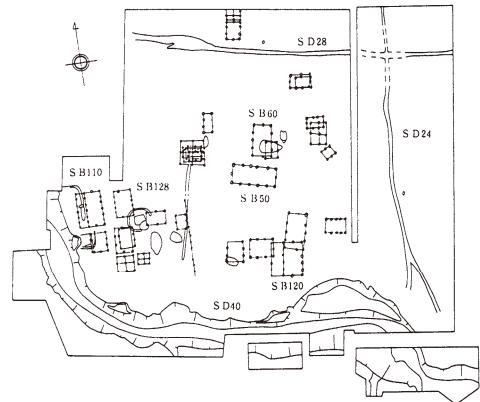
## まとめにかえて

歴史をひととく作業において船着場を見逃すということは、同時にその背後にある当該地の歴史的様相の一端を見逃すことに繋がりうる。水上交通から派生する研究課題は多岐に及ぶであろうが、現状においては船着場の把握という根本的な課題を克服する段階にあると考える次第である。

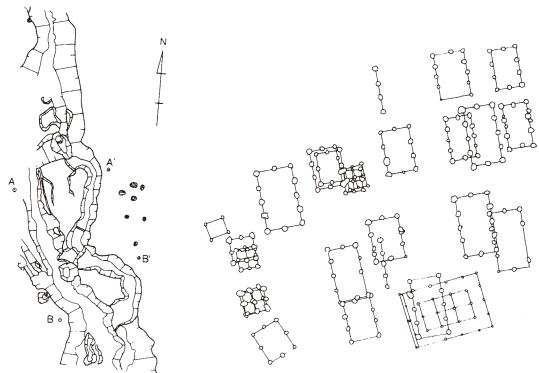
なお、本稿においては内陸の水上交通にかかる検討を中心に行なったが、海洋を対象とするそれについて、若干内容を異にするため、別の機会において論ずることとしたい。

## 【参考文献】

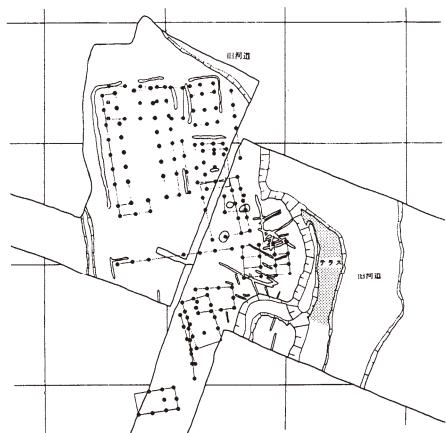
- (1) 高岡市『たかおか—歴史との出会い—』1991他
- (2) 高岡市教育委員会 『中保B遺跡調査報告』2002
- (3) 根津明義 「古代における物資の輸送の一形態」『平成16年度環日本海交流史集会 古代日本海域の港と交流 発表要旨・資料集』(財)石川県埋蔵文化財センター2004
- (4) 防府市教育委員会 『周防の国府跡1970~80年代の発掘調査成果から』1990
- (5) 安楽勉「倭人伝の道対馬・一支国の港と道」『考古学ジャーナル434』1998他
- (6) 岡山県教育委員会『下庄遺跡・上東遺跡』2001
- (7) 島根県教育委員会『原の前遺跡』1995
- (8) 石川県埋蔵文化財センター・三浦純夫氏より詳細をご教示戴いた。
- (9) 福光町教育委員会 『梅原安丸遺跡群Ⅲ』1997
- (10) 金沢市埋蔵文化財センター『上荒屋遺跡』1999他
- (11) 和島村教育委員会『門新遺跡』1995
- (12) 松田直則「四万十川流域の中世河津」『中世都市研究3津・泊・宿』1996
- (13) 大庭康時「古代日本海域の港と交流九州—鴻臚館と古代の港湾—」『平成16年度環日本海交流史集会 古代日本海域の港と交流 発表要旨・資料集』(財)石川県埋蔵文化財センター2004
- (14) 神戸市教育委員会・橋詰清孝氏より詳細をご教示戴いた。
- (15) 石川県埋蔵文化財センター『金石本町遺跡』1997
- (16) 和田龍介「金沢市畠田ナベタ遺跡、畠田・寺中遺跡他」  
『平成13年度発掘速報会資料よみがえる石川の遺跡』2002他
- (17) 新潟県教育委員会他『一般国道7号中条黒川バイパス関係発掘調査報告書 蔵ノ坪遺跡』2002
- (18) 西井龍儀「御亭角遺跡出土の瓦について—御亭角廃寺を中心に—」  
『富山県小杉町・大門町小杉流通団地内遺跡群第5次緊急発掘調査概報』富山県教育委員会1985



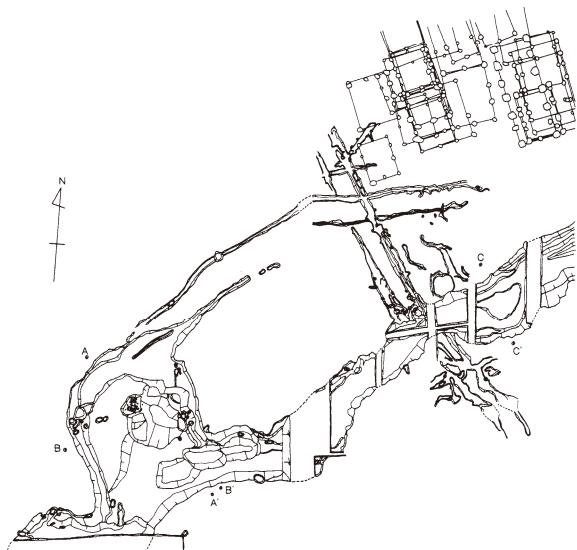
上荒屋遺跡・概略遺構図  
参考文献（10）より転載



中保B遺跡・調査区東側遺構群  
参考文献（2）より一部抜粋



門新遺跡・概略遺構図  
参考文献（11）より転載



中保B遺跡・調査区北側遺構群  
参考文献（2）より一部抜粋

